

大阪教育大学と札幌大学の連携による教職科目を自ら開設できる仕組みの構築
ー先導的な教職科目の全国・地域への展開を通じた質の高い教師人材の安定的な輩出を目指してー

教員養成を取り巻く現状・課題

- 全国のエ育委員会に置いて「教師不足」が深刻化
- 学校現場を取り巻く環境の変化（子ども一人一人の学びの引き出し、いじめ・不登校、外国にルーツのある児童生徒等の増加 など）
- 教師に求められる役割や資質能力が多様化（学習観・授業観の転換）
⇒ 教職課程では**新たな教育課題に対応した科目**の充実が急務
- しかし、**人的にも財政的にも資源が限られている現状**において、個々の大学単独では教職課程を維持することが極めて困難

モデルケース②【学修の多様化・深化 × 大学間連携】を適用
特例対象規定：授業科目の自ら開設の原則

新たなモデルの構築

地域社会

知的資源の効率的活用による教職課程の裾野拡大
多様な専門性と質の高い教師の安定供給

大阪教育大学

先導的な教職科目を広域的に普及・発信
教員養成の質保証や高度化をけん引
学習観・授業観の転換を担う教師の拡充に貢献

教員養成課程

先導的な教職科目、フラッグシップ指定科目を提供

札幌大学

教職課程の効率的展開
次世代型教職課程の開講
北海道の私大の中核として質の高い教師の養成に貢献

教職課程

大教大の教職科目、フラッグシップ指定科目を
自ら開設

Win-Win